

**「FET術後のdSINEおよびTEVAR術後のRTAD発生メカニズムを
明らかにすることを目的としたCFD解析による
大動脈流シミュレーション」
に対するご協力をお願い**

研究の目的と意義	この研究は、TARFET実施後のdSINEの発生機序を解明し、そのリスク要因を明らかにすることで、dSINEの発生を防ぐ治療戦略や追加治療介入のタイミングを含めた新たなフォローアップ体制を提案することを目的としています。新しいフォローアップ体制を提案することにより、あなたと同じ治療を受けている多数の患者さんのTARFET実施後の予後が大きく改善されます。
研究の方法	研究に参加していただく患者さんには、大動脈の血流シミュレーションを行うために、術前および術後のCT検査画像データを提供していただきます。血流解析による大動脈の血流シミュレーションを行うためには、大動脈の解析モデルを作成する必要がありますが、そのためのCT検査画像をDICOM形式のデータとしてCDなどのメディア媒体で使用させていただきます。
対象者	西暦2014年1月1日～2022年1月31日の間に、大動脈解離、および胸部大動脈瘤に対する治療としてTARFET+FETまたはTEVARを施行した患者さんが対象となります。
利用する試料/情報	<p>研究対象者背景 識別コード(各研究対象者に割付けた固有の識別番号)、性別、生年月、入院・外来、身長、体重、体表面積、合併症、既往歴、現病歴、前治療歴など 全身状態 Performance Status (PS) : 体重 末梢血算 白血球数、ヘモグロビン、血小板 血液生化学 総蛋白、アルブミン、総ビリルビン、AST、ALT (alanine aminotransferase : アラニンアミノ基転移酵素)、BUN、クレアチニン、LDH、Dダイマー、フィブリノーゲン 画像データ</p>
利用する試料/情報の取得方法	診療で得られた診療録等
利用する試料/情報の管理責任者・住所	<p>済生会横浜市東部病院 院長 〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1</p>
研究組織	<p>研究代表者 機関名：済生会横浜市東部病院 部署名：心臓血管外科 責任者名：飯田 泰功</p> <p>共同研究機関 機関名：桐蔭横浜大学 部署名：医用工学部 臨床工学科 専任講師 責任者名：佐藤 敏夫 分担者名：山内 忍 分担者名：本橋 由香</p>

	機関名：群馬パース大学 部署名：医療技術部 臨床工学科 助教 責任者名：丸下 洋一
試料/情報の 院外提供	提供先機関・提供先責任者 群馬パース大学 医療技術部 臨床工学科 助教 丸下 洋一 提供方法 匿名化したCD-Rデータを郵送する。
結果公表	研究結果は人工臓器学会、日本胸部外科学会で報告予定です。
研究参加拒否・同意 撤回	情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合または一度研究参加に同意された後に同意を撤回される場合は、西暦2024年1月31日までに下記の問い合わせ先にご連絡ください。
当院研究責任者	済生会横浜市東部病院 心臓血管外科/部長/飯田 泰功
問い合わせ先	〒230-8765横浜市鶴見区下末吉3-6-1 電話045-576-3000(代表) 済生会横浜市東部病院 心臓血管外科/飯田 泰功

略語集

FET：Frozen elephant trunk（外科手術とステントグラフト治療を組み合わせた元祖ハイブリット治療）

dSINE：distal stent graft-induced new entry（ステントの遠位端に新しく形成される血液の流入）

TEVAR：Thoracic endovascular aortic repair（胸部ステントグラフト内挿術）

RTAD：Retrograde thoracic aortic dissection（逆行性大動脈解離）

CFD：Computational fluid dynamic（数値流体力学）

TARFET：Total arch replacement（全弓部置換術）

Performance Status：パフォーマンスステータス（全身症状の医学的指標）

AST：Aspartate Aminotransferase（アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ）

ALT：alanine aminotransferase（アラニンアミノ基転移酵素）

BUN：尿素窒素：B=blood 血液 U=urea 尿素 N=nitrogen 窒素

LDH：lactate dehydrogenase（乳酸脱水素酵素）

CRP：C-reactive protein（C-反応性蛋白）